

地方創生関連交付金事業実施計画 に掲げるKPIの達成状況等について

■ 地方創生加速化交付金

【概要・目的】

一億総活躍社会（少子高齢化に歯止めをかけ、50年後も人口1億人を維持し、家庭・職場・地域で誰もが活躍できる社会）の実現に向けた緊急対応として、「希望を生み出す強い経済」を実現するため、また、「子育て支援」や「安心につながる社会保障」も含めた「新・三本の矢」の取組に貢献するために創設された交付金である。

【事業の対象】

地域のしごと創生に重点を置いた、効果の発現が高い事業

【期待される効果】

地方版総合戦略の取組の先駆性を高め、レベルアップの加速化が図られることにより、地方における安定した雇用創出、地方への新しいひとの流れ、まちの活性化など、「目に見える地方創生」の実現に寄与する。

【効果検証】

総合戦略同様、事業実施に伴う効果について KPI を設定しており、その検証と事業の見直し等については、角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会において行う。

■ 地方創生加速化交付金事業の概要等

【交付金上の事業名称】

『小さくてもキラリと光る角田ブランド活用によるしごとづくり事業』

【事業期間】

平成28年度から令和元年度までの4か年の事業

【事業費等】

平成28年度 9,376千円

(財源内訳 交付金(10/10):9,376千円)

平成29年度 6,122千円

(財源内訳 県補助金:313千円、一般財源:5,809千円)

平成30年度 7,505千円

(財源内訳 県補助金:492千円、一般財源:7,013千円)

令和元年度 6,517千円

(財源内訳 県補助金:24千円、一般財源:6,493千円)

【食の創業支援】
◇ 実施プログラム ◇

01 「食」に関する起業サポートワークショップ
昔ながら角田の食料を活用した「食の起業家」をサポートするために、「食」の基礎力、創業の基礎知識が身に付き、実際に商品開発を行う実践的なワークショップを行います。
期 間:8月～11月(月2回実施、全8回)
定 員:5名(定員超過の場合は抽選会を実施します)
対象者:角田市での食に関する起業を希望する方、または興味のある方
角田市の食料を使用したメニュー開発を希望する方
申込み:080-9634-0066(株式会社veeel)

02 生産者と「食」の起業家を結ぶデータベース
「食の起業家」と生産者さんをスムーズに繋げるプラットフォームとなるデータベースを提供します。

03 イベント型勉強会
多様な講師陣を招き、講演会やレクチャー、ワークショップなどを実施する勉強会を定期的に実施し、様々な職種、能力、年齢の方々が同様な目的を持って集まれる機会を提供します。食関連でない方にも楽しんでいただける内容です。
期 間:8月～翌年3月(月1回開催、全8回)
場 所:コワーキングスペースGomboppa
981-1505 宮城県角田市角田字泉町66番地

かくだ創業スプラウドでは、角田市の豊かな地域資源を活用し、実効性のある「食の起業家」支援プログラムを実施します。
○年後の角田、豊かな食料、素晴らしい生産者、おいしいレストラン、多くの人が「食の街角田」へ訪れる、そんな未来をつくるための第一歩。

美食の街角田へ

お問い合わせ先 株式会社 veeel TEL:080-9634-0066 宮城県角田市角田字泉町66番地
<https://veeel.wixsite.com/kakuda>
veeelは「第019797L6802号14号16号有」8日部、「8548号販買原の売買拠点(製造)」を主として活動する。
主な事業:ネットショップ、タスク・人材サービス、Eコマース事業、Eコマース事業創成支援事業、学生支援事業等

食の創業支援実施プログラム

【事業内容】

[平成 28 年度・平成29年度]

1. 創業支援

『かくだ創業スプラウト』を設立し、市からの負担金(平成 28 年度:8,826 千円、平成 29 年度:5,485 千円)を財源に、『一般社団法人 MAKOTO』に業務を委託し、ビジネススクールや伴走型支援などの創業支援事業を実施した。

2. 移住定住支援

創業希望者等の移住・定住を促進するため、PR 用チラシ及びポスターを作成し、市内外に広く周知を図った。

[平成 30 年度]

1. 創業支援

「かくだ創業スプラウト」が市からの負担金(6,500 千円)を財源に『株式会社veeell(ヴィール)』に業務を委託し、これまでのビジネススクールや伴走型支援に加え、実効性のある「食」の起業家育成プログラムを実施した。

2. 移住・定住支援

創業希望者等の移住・定住を促進するため、首都圏で開催される移住フェア等への参加・出展や仙台駅での広告掲載により、市外への周知を図った。

[令和元年度]

1. 創業支援

「かくだ創業スプラウト」が市からの負担金(6,500 千円)を財源に『株式会社veeell(ヴィール)』に業務を委託し、これまでのビジネススクールや伴走型支援に加え、実効性のある「食」の起業家育成プログラムを実施した。

2. 移住・定住支援

創業希望者等の移住・定住を促進するため、首都圏で開催される移住フェア等への参加・出展により、市外への周知を図った。

地方創生加速化交付金事業評価シート

No.	重要業績評価指標 (KPI)		担当課	事業開始前 0 (平成27年度)	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和元年度 目標	達成状況 ○: 達成 ×: 未達成	担当課評価	
	指標名	現状分析									今後の取組(改善)	
1	創業支援事業計画に基づき創業支援を受けた創業業者数	0 (平成27年度)	0	0	3	5	5	5	12	人	×	<p>現状分析</p> <p>① 創業者予備軍を発掘し、ビジネススクールや伴走型支援(ハンズオン支援)などにより、創業へ向けた支援を実施している。 【創業実績】 ・0件 【創業支援内容】 ・ビジネススクール 受講者28名(延べ) ・伴走型支援 3名 ・市内外コミュニティ構築 参加者58名(延べ) ・食の起業家サポートWS(基礎編) 1名 ・食の起業家サポートWS(実践編) 2名 【創業者への優遇措置】 ② 特定創業支援事業(ビジネススクールや伴走型支援)を受けた創業者に対して次のような優遇措置がある。 ・登録時の登録免許税の軽減 ・創業関連保証の特例</p> <p>今後の取組(改善)</p> <p>今後も、かくた創業スプラウト(角田市創業支援協議会)を構成する関係団体との情報交換、連携を図りながらビジネススクールや伴走型支援を実施し、創業希望者が会社設立登記に係る登録免許税の軽減などの優遇措置を受けられるように支援していく。</p>
2	「こめ・まめ・うめ」を活用した新たな特産品の開発数 ※創業支援事業計画に基づき創業支援を受けた創業者による	0 (平成27年度)	0	0	0	0	0	0	8	品	×	<p>現状分析</p> <p>創業者予備軍を発掘し、ビジネススクールや伴走型支援(ハンズオン支援)などにより、創業へ向けた支援を実施している。しかしながら、「特産品開発」に取り組み創業者が掘り起こせていない。</p> <p>今後の取組(改善)</p> <p>今後も、かくた創業スプラウト(角田市創業支援協議会)を構成する関係団体との情報交換、連携を図りながらビジネススクールや伴走型支援を実施し、特産品開発に取り組み創業者の掘り起こしを図る。</p>
3	創業支援事業計画に基づき創業支援を受けた創業者のうち転入した者の数	0 (平成27年度)	0	0	0	0	0	0	4	人	×	<p>現状分析</p> <p>創業者予備軍を発掘し、ビジネススクールや伴走型支援(ハンズオン支援)などにより、創業へ向けた支援を実施している。しかしながら、市外からの創業希望者を掘り起こせていない。</p> <p>今後の取組(改善)</p> <p>今後も、かくた創業スプラウト(角田市創業支援協議会)を構成する関係団体との情報交換、連携を図りながらビジネススクールや伴走型支援を実施し、市外からの創業希望者の掘り起こしを図る。</p>

■ 地方創生推進交付金

【概要・目的】

平成 28 年度からの地方版総合戦略の本格的な推進に向け、地方創生の深化のために創設された交付金である。

【対象事業】

地方版総合戦略に位置付けられた、自主的・主体的で先導的な事業

【期待される効果】

先駆的な取組等を後押しすることにより、地方における安定した雇用創出、地方への新しいひとの流れ、まちの活性化など、地方創生の深化の実現に寄与する。

【効果検証】

総合戦略同様、事業実施に伴う効果についてKPIを設定しており、その検証と事業の見直し等については、角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会において行う。

【交付金上の事業名称・事業期間】

- ①『Challenge Million 2016 道の駅からはじまる角田（まち）づくり事業』（平成28年度～平成 30 年度）
- ②『ニューツーリズムを核とした地域活性化プロジェクト』（令和元年度～令和3年度）

【②の事業費等】

令和元年度 4,711 千円

（財源内訳 交付金：2,355 千円、一般財源：2,356 千円）

令和2年度（当初予算） 35,620 千円

（財源内訳 交付金：17,810 千円、一般財源：17,810 千円）

令和3年度（実施計画予算） 15,320 千円

（財源内訳 交付金：7,660 千円、一般財源：7,660 千円）

■地方創生推進交付金事業（令和元年度～令和3年度）の概要

【事業の内容】※地域再生計画より抜粋

「道の駅かくだ」における賑わいを一時的かつ局所的なもので終わらせず、市内各所にその賑わいを循環させるため、次に掲げる「体験型かくだチャレンジ事業」及び「かくだ版スポーツツーリズム推進事業」に取り組むもの。

事業の実施にあたり、オープン後間もない「道の駅かくだ」の管理運営会社である『(株)まちづくり角田』が単独で新たな事業に着手することの難しさを考慮し、かつ、多角的な意見の集約を行った上で調査・研究を行い、より実効性のある事業を展開していくために、市民及び関係団体（『(株)まちづくり角田』を含む。）等で構成する『Challenge Million 市民会議』（以下「市民会議」という。）を創設し、市民会議が体験型観光プログラム、かくだ版スポーツツーリズム等を構築するとともに、今後当該事業の実施主体となる『(株)まちづくり角田』に対し、事業の提案及びサポートを行う。

当該体験型観光プログラム等は、『(株)まちづくり角田』が実施主体となり、道の駅かくだを賑わいの交流拠点としての機能を強化しつつ、かくだスポーツビレッジの利用者の増を図るだけでなく、市内に点在する観光地を結びつけ、地域経済の好循環を生み出すきっかけを創出するものであり、体験型観光プログラムの発着点を道の駅とすることで道の駅かくだの利用者の増にも繋げていく。

1 体験型かくだチャレンジ推進事業

道の駅をプラットフォームとする地域資源をフル活用した体験型観光を推進するため、体験型観光に係る計画策定、体制整備、システム構築を行う。

- (1) マーケティング調査、計画策定等
- (2) 観光アドバイザー等の招聘
- (3) 体験メニュー掘起し開発
- (4) サイクルツーリズム用レンタサイクル導入
- (5) 体験型イベント（グリーンツーリズム、サイクルツーリズム）運営、プロモーション
- (6) 観光周遊ルートの検討・策定
- (7) 観光周遊ツアー（モニターツアー）の実施

2 かくだ版スポーツツーリズム推進事業

かくだスポーツビレッジと道の駅かくだが、スポーツを通じて健康、子育て、まちづくり等をテーマに連携することで、交流人口の拡大及び地域経済の活性化を目指す「かくだ版スポーツツーリズム」を推進するにあたり、道の駅かくだを拠点とした連携事業を展開するとともに、地域資源の一体的なPRを実施する。

- (1) 地域資源の一体的なPR(情報発信能力向上研修実施、道の駅とスポーツ施設の地域資源コラボPRの実施)
- (2) 健康づくり・賑わいの拠点化(ウォーキング拠点化イベント開催、大会等の誘致、人材育成支援)
- (3) 幼児向けの遊び場(スポーツをテーマとした幼児向けの遊具を設置した遊び場(「キッズスポーツエリア」(仮))を整備・道の駅と連携活用)

[令和元年度]

「Challenge Million 市民会議」が市からの負担金(4,711千円)を財源に次の事業を実施した。

1. 「Challenge Million 市民会議」運営(21千円)

2. 体験型観光振興プラン策定事業(2,345千円)

今後、道の駅かくだをプラットフォーム化して実施する体験型観光事業のシステムを構築するため、調査・研究を行った。

- (1) 角田市で行われた農業体験ツアーの実施結果について
- (2) 角田市のサイクルツーリズムの可能性について
- (3) 体験型観光ツーリズムコンテンツの検討について
- (4) かくだ体験型観光ツーリズムアクションプランについて

3. 観光需要ニーズ調査事業(399千円)

市内の観光資源「JAXA、スペースタワーコウスモハウス、道の駅」と季節の催事「牟宇姫ひなまつり」等を組み合わせたモニターツアーの実施を予定していたが、令和元年東日本台風の影響及び新型コロナウイルス感染症対策により、中止した。

定員 30 名に対し、69 組より参加申込があり、抽選により12 組 30 名の参加予定だった親子に対し、観光需要、二次交通についてのアンケートを実施した。

4. かくだ版スポーツツーリズム推進体制・システム構築事業 (1,946 千円)

「道の駅かくだ」とかくだスポーツビレッジの連携による賑わいの相乗効果を図り、かくだ版スポーツツーリズム事業のシステムを構築するため、調査・研究を行った。

(1) かくだスポーツビレッジと道の駅かくだの一体的なPR(チラシの作成・配布)

(2) ウォーキングによる健康拠点化

① 初心者向け健康ウォーキング教室の開催

② ウォーキング指導者育成研修会の実施

③ ウォーキングステーション開設準備

※新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、一部中止した。



[参考:令和2年度]

令和元年度に「Challenge Million 市民会議」において実施したマーケティング調査、ニーズ調査等の結果に基づき、分野ごとに事業の推進体制を整備するとともに、体験型観光システム及びかくだ版スポーツツーリズムを構築する。また、初年度からの調査・研究の結果、事業展開が可能なものについては、『道の駅かくだ』を発着点とした体験型観光事業の実施を開始する。(予算額:35,620 千円)

1. 「Challenge Million 市民会議」運営(120 千円)

2. 体験型観光ツーリズムコンテンツ開発事業(3,500 千円)

3. 観光需要ニーズ調査事業(2,500 千円)

4. かくだ版スポーツツーリズム推進体制・システム構築事業
(4,500 千円)

5. 幼児向け遊び場整備事業(25,000 千円)

地方創生推進交付金事業評価シート

No.	指標名	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	事業開始前 (平成30年度)	令和元年度 実績	令和3年度 目標	達成状況 ○:達成見込み △:達成努力中 ×:要努力 ー:算定不能	担当課評価	
								現状分析	今後の取組(改善)
1	道の駅かくくがた売上高	商工観光課	0 (平成30年度)	276,289 千円	279,000 千円	↑	平成31年4月19日に平成最後の道の駅として開業。来場者、売り上げともに順調な滑り出しとなったが、10月の令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛の影響により年度後半は厳しい状況となった。	新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況の中、イベントの開催が困難な状況にある。今後の状況を見極めながらKSPとも連携を図りながら売り上げを伸ばす努力をしていく。	
2	体験型観光メモニー利用者数	商工観光課 ／まちづくり 交流課／生涯学習課	0 (平成30年度)	148 人	1,940 人	↗	①グリーンツーリズムの実施は行っていない。 (令和元年度計画なし) ②阿武隈急行と連携するモニターツアーは令和元年東日本台風災害の影響に伴い中止した。 ③子育て世代をターゲットに計画したモニターツアーは、開催直前に新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止した。(定員30名に対し、69組より参加申込があり、抽選により12組の親子が参加予定だった。) ④参加予定者にモニターツアーに関するアンケート調査を行い、角田市に対する観光ニーズがあることが確認できた。 ⑤初年度は、かくくがたスポーツビレッジと道の駅が連携したスポーツ型体験事業を試験的に実施。令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症対策により、10回のうち4回実施し、いずれも定員を超える予約があるなどニーズ把握を行うことができた。	①道の駅かくくがたを拠点とした体験型観光メモニーの開発、実施を行っていく。 ②複数のモニターツアーを企画し、観光ニーズの掘り起しに取り組みながら、地域公共交通の活用策について検討を進める。 ③スポーツ体験型事業は、感染症対策を十分に講じながら、秋以降の再開を目指し、事業の定着化を目指す。 また、グリーンツーリズム等の体験型観光事業の開発、実施も行っていく。	
3	かくくがたスポーツビレッジ利用者数	生涯学習課	261,014 (平成30年度)	202,000 人	285,000 人	↘	10月の令和元年東日本台風被害により、利用者数の多い総合体育館、陸上競技場、テニスコートが3月まで利用できない状況になり、早めに復旧再開した施設も、新型コロナウイルス感染症対策により、3月は利用停止、制限を行った結果、前年度より大幅に利用者数が減少した。 【令和元年度実績内訳】(前年比▲59,014人) ・総合体育館48,879人(▲31,056人) ・温水プール69,814人(▲8,468人) ・陸上競技場20,245人(▲13,416人) ・野球場7,405人(▲1,172人) ・多目的運動場5,240人(▲1,177人) ・多目的芝生広場6,784人(▲1,687人) ・テニスコート13,580人(▲4,790人) ・ゲートボール場243人(31人) ・交通公園自転車17,167人(4,606人) ・スポーツ交流館12,643人(▲1,885人)	①災害復旧工事の完了 新型コロナウイルス感染症の収束による再開に向け、災害復旧工事の早期竣工を目指す。 ②Challenge Million市民会議の取組 ・道の駅とスポーツの連携を図り、健康づくりの拠点化を目指す。 ・交通公園内に新たに大型遊具を設置し、幼児の遊びの場を提供する。 ③スポネットかくくがたの活動の定着化 スポネットかくくがたの活動の定着化を支援し、市民のスポーツ実施率を向上させ、施設利用の増加を図る。	